

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 住山 茂

1. 概要

ブロック名(会則に記載)の後に番号や歩行の通称を記載しても良い

ブロック名	北陸ブロック 7
歩行区間詳細 (分り易い地点)	スタート地点: JR柏崎駅 ゴール地点: JR新潟駅
実施期間	2018年11月5日(月) ~ 11月8日(木)
全歩行距離	93km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	74	4	12期
2		江守 善昭	80	4	5期
3		森 正昭	76	4	9期
4	記録	住山 茂	73	4	12期
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	11/5	JR柏崎駅~高浜海水浴場	14	稲葉・江守・森・住山	
2	11/6	高浜海水浴場~郷本海水浴場	23	〃	
3	11/7	郷本海水浴場~浦浜海水浴場	22	〃	
4	11/8	浦浜海水浴場~JR内野駅	19	稲葉・住山	
5	11/8	JR新潟駅~JR内野駅	15	江守・森	
6					
7					

4. 参加費

参加者延べ日数 4人×4日

参加費合計 1,600円

5. 費用概算

交通費(大人の休日切符使用) 13,600円

宿泊費(酒代含む) 20,700円

昼食・食材他

6,600円

合計(1人当り) 40,900円

6. 歩行の詳細

11月5日(月) 天気 晴れ

稲葉さん、森さん、住山の3名は東京駅7時48分のとき305号に予定通り乗車、江守さんは大宮駅から乗車する予定だったが、電車のトラブルのために乗り遅れてしまった。そこで稲葉リーダーはスマホを駆使して電車とバスの時間を調べ、次の新幹線に乗って長岡駅で乗り継ぎ、柏崎駅からはバスで3人を追いかけてもらうことにした。

スマホを持たない私はスマホの威力に感心してしまったが、まずは3人で10時50分に柏崎駅をスタート、2時間ほど歩いた青山稲荷神社の前でバスから降りてきた江守さんと合流することができてまずは良かった。

青山稲荷神社の鳥居前で柏崎駅で購入した弁当を食べ、1時10分頃に午後の歩行を開始し、柏崎刈羽原発の前に差し掛かったが、原発の敷地は非常に広く周囲は雑木林になっていて、脊の高い鉄塔が見えるだけで、中の様子を窺い知ることは出来なかった。

刈羽原発で働いている21期の渡辺道人さんとは逢うことは出来なかったが、ここでは約4千人が働いているとのこと。外部と通じる出入り口は少なく当然のことながら厳しいチェックがされている様子が見られ、内部で働いている人達はどんな毎日なのだろうか、一寸想像がつかない感じがした。

4時頃に高浜海水浴場の先の民宿「田谷」に到着。民宿では通常の料理の他に、バアチャン手作りの黒っぽい甘酸っぱいラッキョウと小ぶりの干し柿が大変美味しかった。

夕食後宿のバアチャンが一貫張りなるものを見せてくれた。一貫張りとは古文書や古布を籠に張り付けたもので、この宿のお爺さんの卒寿のお祝いに皆さんに配ったのだと。この民宿はかなりの旧家のように、バアチャンは熱く語ってくれた。



柏崎駅をスタート



原発の出入り口



一貫張りの説明を聞く

11月6日(火) 天気 曇りのち小雨

朝から曇天で雨が降り出しそうな天気だった。窓を開けるとこの辺りの民家に施されてる板囲いを内側から見る事ができたが、雪囲いならぬ海からの風を防ぐ風囲いとのことで大変頑丈につくられていた。

8時10分頃に出発、椎谷(シヤ)観音堂を通過して観音岬へ。予報より早く小雨が降り出し、傘をさしての歩行となったが、長浜海水浴場、大崎海水浴場、石地海水浴場と次々に海水浴場を通過して、「〇〇臨海学校の宿」といった看板も見られ、夏にはかなりの海水浴客が来る事が窺われた。

この辺りは春には雪割草が沢山咲き、雪割草の里として有名らしく、「雪割草の湯」という温泉宿も見られた。雨の中の歩行にはバス停の古びた、人のいない小屋は休憩するのに最適だった。

12時過ぎに「道の駅越後」に到着してここで昼食。午後も弱い雨が降り続く中、出雲崎町に差し掛かり、ここは良寛ゆかりの地で良寛記念館などは入館しなかったが、民話や昔の生活の説明看板が多く掲示され、それを見ながらの歩行で時間がかかった。

また、古い街並みが残っていて北国街道の往時の繁栄を偲ばせるものがあり、国道402号線は旧街道の海側にバイパス道として作られていて、旧街道は車も少なく静かなたたずまいだった。そんな中で「北国街道妻入り会館」の内部を見せて貰ったが、建物は外観も内部もとても趣きのある作りで、間口は狭いが奥行きがあり、建物内部の片側は海岸と街道をつなぐ形で土間となっていて、荷揚げされた物資を土間を通して街道まで運べる構造になっていて、先人達の知恵に感心してしまった。

井鼻海水浴場で旧街道と国道が合流し、また海を見ながらの歩行となったが、佐渡島はかすかに確認できる程度だった。遠くまで見える海岸線の自然は綺麗だったが、今話題のマイクロプラスチックではなく、プラスチックの魚の容器のかけらが散乱し景観をみだしていた。リーダの地図読みの間違いもあり、寺泊郷本の宿には4時過ぎに到着。「阿弥陀様の湯 あだち」という宿で、湯船の脇に置かれた阿弥陀様を含めて沢山安置されており、一寸不思議な感じがした。



雪囲いならぬ風囲い



北国街道 妻入り会館



妻入り会館内部

11月7日(水) 天気 曇りのち晴れ

早朝には雨が降っていたが、朝食が終わる頃には止んでいたのが良かった。8時30分に出発して寺泊金山海水浴場で国道から分かれて旧道に入り、水族博物館先のスーパーで野菜などを購入。その後、江守さんは疲労もあり、寺泊港からバス・電車・バスと乗継ぎ、今日の宿に先行してもらうことにした。

この日は個人の別荘を宿として使わせてもらうため、自炊となるために食料の調達が必要だったため、野菜などはバスに乗る江守さんをお願いして、ここで江守さんと別れる。バス停の先には所謂「寺泊魚市場」があり、魚介類を売る店が立ち並び、朝10時頃だったが大変賑やかだった。

ここで夕食用の刺身や蟹を購入、大きな蟹を二つ買うと味噌汁用にと小ぶりの蟹を二つおまけしてくれ、蟹だけで結構な重さになってしまった。結果的に、江守さんに刺身や蟹以外の多くの食材をもっていただき助かった。

商店街を抜けて国道に入り野積橋をわたると弥彦山が目の前になって来て、昼は野積海岸の「お宿まつや」で食べる予定だったが、国道沿いにあった「まつや」は夏だけの営業のようで閉まっていた。そこで旧道沿いを探したところ、「お宿まつや」を発見したが何と予約制とのこと。近くには食堂などもなかったため、頼み込んだところお刺身定食程度であれば3人分用意できる、と。お刺身定食ならば充分とお願いしたが、出てきた定食にビックリなんとデザート付きの豪華なもの(ビールも飲んで一人1200円の安さにビックリ)だった。

「まつや」の建物は茅葺きで、柱も太くいりりもある立派なもので、庭には「八百比丘尼の松」という伝説の三本松もあり、由緒のあるものの様であった。

たまたま同室に地元の郷土史等に詳しい3人のお年寄りが会食していて、歴史等の話を伺った。更に詳しい話をしてくれそうだったが、時間も無くなってきたので失礼した。

腹ごしらえも終え、国道を歩いたが男釜、女釜、浦浜、獅子ヶ鼻などの海岸線の風景を眺めながらの気持ちの良いものだった。しかし、やがて道は海から離れて登り坂になり、約 100m の高度を稼ぐのはなかなかしんどかった。

五ヶ峠から一気に浜まで下り、江守さんの待つ五ヶ浜の「さかえや」に到着。途中で多くの時間を費やしたので太陽の沈みかけた4時半過ぎだった。「さかえや」は別荘を開放してくれた宿で、我々4人だけだったので入浴後に持ってきた蟹や刺身などを食べ、大満足の夕食となった。



お刺身定食
これにデザートが付いた

「お宿 まつや」のお客さんと

蟹の豪華な夕食
さらに刺身なども

11月8日(水) 天気 晴れ

2班行動とし、第1班は稲葉、住山、第2班は江守、森のメンバーとした。

第1班 稲葉、住山

宿泊した別荘の持主が来るのを待つ宿代を支払い8時05分に出発。上空は晴れていたのに水平線近くはモヤが掛った感じで、佐渡島は残念ながら見えなかった。最初は越後七浦、角田崎燈台を見ながらの快適な歩行だったが、やがて道は海岸から少し離れて左側(海側)は雑木林、右側は綺麗な畑が続く交通量の多い単調な道になり、時々見られる道端の小さな木の紅葉やセイダカアワダチソウの花の黄色がせめてもの慰めだった。合流点を目指してひたすら歩く感じになってしまった。

四ツ郷屋で国道から脇道に入り、浜に出て宿の奥さんが作ってくれた赤飯のおにぎりを食べたが、残念ながら佐渡島を見ながら、と云うことにはならなかった。昼食後はまた海も見えない単調な道を約10km、2時間の行程は面白味もなく合流地点を目指してひたすら歩く感じになった。

新潟駅からスタートした江守さんは調子が良くないとのことで、当初の新川漁港での合流を変更し、バスでJR内野駅に出てもらうことにした。

稲葉・住山も内野駅に行くことにして1時45分頃に江守さんと合流、森さんは2時10分頃に到着し、新潟駅へ電車が出てそこで打ち上げ、今回の柏崎駅⇄新潟駅間の歩行終了を祝って乾杯する。

第2班 江守、森 (記録 森正昭)

新潟までバスと鉄道を利用し先回りし、そこから合流点に向かって歩くこととなった。9時に新潟駅から「歩く旅」を開始し、萬代橋を渡る。さすがは、日本一の大河、信濃川はたっぷりと水をたたえている。

初めての新潟だけに感動。

白山神社により、歩く旅で訪れたことを報告する。

新潟大学医学部、県立新潟高校、中学校や小学校と文教地域の中を歩く。日差しが思いのほか強く汗ばむが、距離が稼げない。4日目ともなると足は重く、江守さんはもっと重そう。稲葉・住山組から海岸線が気持ちよいとの連絡があった。

途中、犬を散歩中の女性と出会う。アーティストで制作に疲れて出てきたとのこと。「歩く旅をしている」というと「楽な方に流れてしまう自分を反省」とえらく感心してくれた。

砂浜に出て昼食の握り飯を食べるが、目の前に見えるはずの佐渡島は、とうとう見えじまいった。

後半、江守さんはリタイア、バスに乗って集合地点の内野駅に向かった。

新潟大学五十嵐キャンパスは、工学部・理学部・農学部などを抱えており、東京ドーム16個分の広さとか。そこを横目に見ながら、内野駅に14:10到着。疲労感のわりに13kmは短いと思った。

帰ってからグーグルマップで調べたら、15kmだったが、忘れ物を取りに戻ったり、市内もうろうろしたので、実際にはもっと歩いていたろう。



越後七浦の海岸線



四ツ郷屋の浜で昼食
残念ながら佐渡島は見えなかった



新潟駅で打上げ後解散

7. 歩行区間の地図

